

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2026年3月20日			
放課後等デイサービス やさしさいっぱい天神					
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	0	時間帯や活動項目に応じて多目的に部屋を活用している。	勉強部屋、活動部屋、バルコニー(外活動)と分かれており、十分なスペースがあるので適切である。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	2	児童2.5人に対し職員1人またはそれより多い人数で対応に当たっている。法で定められた児童3人に対して職員1人より多い。	子どもの数に対して職員の数が多い時がある。手厚く支援できているので適切である。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	1	部屋は用途によって分かれており、子どもたちも周知している。車いすの子どもはいないのでバリアフリーはなされていない。各部屋に1人は職員がいる。	玄関口の狭さやバルコニーへの出入り口部分はバリアフリー化を検討中。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	0	利用児童が来る前、帰った後に職員が清掃を行っている。活動にも清掃の時間があり、利用児童と一緒に掃除をしている。電子ピアノ、ソファがあり、くつろげる環境になっている。	学習室、指導訓練室、バルコニーと分かれており、リラクセスして過ごせるようにソファやマットを備えている。洗濯機の活用もある。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	0	個別でクールダウン、または話を傾聴する時は勉強部屋の扉を開けて静かに過ごせる場所を作っている。	必要に応じて個別に学習室やバルコニーなどを使えるようにしている。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7	1	朝礼で前日の振り返りを行い、改善策を考えている。職員全員時間を設けて参加している。職員によるカンファレンス記録をもとに現状を把握し、振り返りにも利用している。	パート職員は朝礼への参加が難しい点があるため、業務日誌を読んでもらう。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	全ての保護者からの評価表からの意向に目を通し、業務改善を行えるところは行っている。毎年、保護者向けの評価表を配布して、そのアンケート調査の結果を業務改善に繋げている。	ご希望に添えない場合もあるが前向きに検討する。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	1	朝礼やその他の会議、研修等の時間の他、利用児の来所前に職員で話す機会を設けている。	朝礼、職員会議で職員の意見を聞き、業務改善に繋げる努力をしている。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	5	業務改善のアンケートについては正職員だけでなくパート職員も参画している。	第三者による外部評価は行ってないので検討する。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	1	研修計画に従い内部研修を実施している。毎月ジョブモデルの毎月のリモート研修では全職員の参加が義務付けられている。他にも外部研修へ参加している。	リモート研修は個人なので話し合いの時間が取れない。
適切な支援の提	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0	支援プログラムは作成してHPに掲載している。「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」の5領域を踏まえた支援プログラムの作成をしている。	HPを見る事ができない保護者様にはご不便をおかけしている。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	2	担当者会議、モニタリングを設けて保護者のニーズや課題をAIを加えて分析し計画書を作成している。アセスメントシートへの記入をお願いし、その後担当者会議での相談員、保護者様と話し合い、個別支援計画を作成している。	アセスメントシートを新しくしている。
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	1	放課後等デイサービス計画は日々の記録、職員によるカンファレンス、朝礼で話し合ったことを参考に児童発達支援管理責任者がまとめている。カンファレンスでは利用児の半学期の様子を「強み」と「課題」の欄から検討し、その他学校やご家庭での様子を共有している。	カンファレンスははるだけ多くの職員の意見を取り入れることを目標とする。
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	1	放課後等デイサービス計画は職員へ一度目を通してもらった後にファイルへ入れいつでも読み返すことが出来るようにしている。	全ての職員が積極的に支援の在り方を深く理解し同じ方向性での支援を目指している。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	2	標準化されたアセスメントツールを使用している。一年に一度標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントを行っている。インフォーマルなアセスメントは日々の朝礼で行っている。	インフォーマルアセスメントはそれぞれの見方と分かれているので同じ方向を目指す。
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	1	ガイドラインに沿って基本の4つの活動や5領域との繋がりを明確にした上で総合的な支援を提供している。個別支援計画書の中に「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域支援・地域連携」を設けている。それぞれの子どもに沿って具体的な支援内容を設定している。	「移行支援」「地域連携」は対象児童がいない。地域性もあり難しい。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	0	活動プログラムは毎月の職員会議で翌月の活動プログラムを立案し、職員全体で考え、保護者へお知らせしている。	時間の枠があり、パート職員の参加が難しい。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	1	お誕生会、体操教室等固定しているものもあるが、固定化しないように季節の行事や工作など様々なプログラムを立案している。	年単位でみると季節の行事プログラムが固定しつつある。

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	2	個別活動と集団活動の時間分けをして計画を立てている。毎日個別活動の他にその日行う集団活動があり、子どもが来る時間に合わせて30分～1時間程度行っている。	集団活動は一緒に行動が多いためレベル対応が難しいこともある。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	1	支援開始前に朝礼にて立案したプログラムの内容や、支援内容、目標、職員の役割分担などについて確認している。	役割分担を決めているが突発的な事象に対する迅速な対応が難しい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	0	気付いた点や共有すべきことは送迎後や朝礼にて振り返りを行い、問題が起こった場合はその後の経過報告もしている。	全てが共有されていない事柄があるので連携を強めていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	毎日個別の支援記録をとって業務日誌もつけるなど、その日のうちに記録を行い担当者会議、個別支援計画書に反映させている。	引き続き、しっかりと記録を付けて改善に努めていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0	児童発達支援管理者と保護者間で半年に一度モニタリングを行い、面談で改良された点、新たな問題点の見直しを行っている。	高度なサービス提供のために職員間での話し合い、情報共有をよりなお深めていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	8	0	基本的な生活習慣や動作、創作活動、地域交流の機会の提供、余暇の提供を組み合わせた活動をしている。	活動に隔たりがないか常に見直しを行っている。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	0	選べるおやつや提供、お買い物体験、工作や遊びの中などを通して自己決定をする力を育てる支援をしている。	月の行事で何がしたいか児童たちの意見も参考にしていく（自己決定）
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	1	相談支援事業所の相談員をはじめ、児童発達支援管理責任者又その子どもに普段触れ合っている職員が参画している。	時間帯によっては職員が参加できないこともある。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	1	相談支援事業所等や学校、福祉事業所と必要に応じて連絡を取り合っている。子どもが怪我をした場合はかかりつけ医へ連絡、市役所の障害福祉課、小学校の担任教師と連携している。	主治医とは保護者を通した情報となる。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	0	担任教諭から情報をいただいたり、週末に時間割を子どもからもらって情報を共有している。連絡が必要な際は保護者へ電話、メール等で連絡を取っている。	毎週金曜日に翌週の時間割を確認、コピーしている。時間割に行事予定は記載されている。トラブル発生時は学校からの連絡を受けることがある。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	1	7	特別に支援を必要としている子どもは相談員を通じて情報を保育所や幼稚園、認定こども園からいただいている。	保護者様や相談員から頂いた書類は支援前の参考にしているが、疑問点がある場合は相談員を通して答えをもらっている。。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	5	開所以来現在まで高校を卒業した利用児がいない。	卒業児が出れば相談支援事業所を通じて情報を提供させていただく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	5	あいろん等で研修を受ける時に様々な事業所の方や発達支援センターの方と意見交換をしている。児童発達支援センター、保育所から情報をいただくとしく支援に入っている。	自社へ受入れの後助言をいただくことではないので機会を設けたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	6	児童クラブへ利用児のごとで連携している。	交流や活動の機会を考えていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	5	研修・交流会は参加しているが、自立支援協議会への参加はない。	今後、機会があれば考えていきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	送迎時に保護者へその日あった出来事についてお伝えしている。その他、連絡帳やLINE等のツールを用いて児童の状況を伝え、担当者会議やモニタリングを通じて共通理解に繋げている。	ご希望時にはいつでもお話しできる機会を設けていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	6	機会を設けたいと思っているが、検討中である。	検討中である。
保	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0	運営規程、利用者負担については契約時に説明を行っている。支援プログラムについてはホームページ、行事予定でお伝えしている。	質問や説明を再度ご希望される場合はいつでも機会を設ける。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	2	定期的面談、送迎を通じて保護者や利用児のニーズを確認している。子どもの意見箱でやりたいことや困っていることを確認している。	子どもの意見箱をもっと活用して、今後も引き続き行っていきたい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	3	面談時に個別支援計画の説明を行い、事業所、家、学校の様子を伺いながら計画に沿ったお話をしている。ご質問ご要望を受けて、保護者へ控えをお渡しして同意を得てサインを頂いている。	今後も幅広く保護者、利用児のニーズにお応えできる計画を立てていく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	1	モニタリングや担当者会議、LINE、日々の送りの時間でご要望があれば相談に乗っている。できることのご要望にはお応えしている。	引き続き保護者とのコミュニケーションを図り、相談しやすい環境の中で面談や助言を行っていくことを目指す。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	2	6	設けていない。	機会を設けたいと思っている。検討中である。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	事実確認を行い迅速かつ適切な対応ができるよう心掛けている。苦情受付担当者を設け、どこへ連絡をすればよいか事業所の入り口に掲示している。苦情があった際は迅速に対応策を考え、再発防止に努める。	事実確認に時間を要する場合があるので連携を強めていく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8	0	定期的に通信をお配りしている。その他、HPやSNSでも情報発信しており、活動の概要や毎月の行事予定表、利用児童の成長した部分などについてお伝えしている。	動画撮影での発信を視野に入れ検討を続けていきたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	個人情報を取り扱いは厳重に注意をし、書類は鍵をかけて保管、不要になったものはシュレッダーを使用している。写真をSNSやお便りに転載するにあたっては保護者様から同意書を受け取っている。	公共の場で名前を呼ぶことに配慮する。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	毎日の連絡帳記入でその日の様子等について保護者様と情報交換を行っている。意思疎通の難しい児童に対しては絵カードを用いて配慮することもある。毎日の連絡帳だけでなく、必要に応じて保護者様と電話やLINE等を通して情報伝達を行っている。	迅速かつ適切な対応を心掛ける。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	7	事業所がマンション内にあるので地域住民を招待するにはスペースの面で制限がある。近隣の人々への挨拶は欠かさないようにしている。	より良い方法を検討する。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	1	定期的にそれぞれの訓練を実施している。行事予定表でご家族へお知らせし、保護者様には契約時に説明を行っている。また、実施した訓練の様子を毎月の通信やSNSによって発信している。	ご質問や再度説明を希望される時は迅速に対応する。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0	業務継続計画（BCP）の策定、定期的な避難、救出、その他の訓練は行っている。	BCPが必要に応じて内容を改定していく。研修、訓練、シュミレーションを通じて職員へ周知していく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7	2	服薬、てんかん発作はアセスメントで予防接種は保護者の報告で把握している。契約時と一年に一度アセスメントシートにて服薬状況や体調について情報を集めている。	保護者様と密に連絡を取り状況を確認していくことを目指す。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	2	契約時と一年に一度のアセスメントシート、保護者様からの連絡によって食物アレルギーがあれば対応している。	指示書まではもらっていないが、医師の指示も仰いでいくようにする。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0	安全計画を作成し、職員間で安全点検、マニュアルの共有、研修・訓練、安全管理を十分に行っている。	毎年安全計画の見直しをしていく。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	0	訓練は子どもとしている。反省会も行っており、取り組み内容はSNSや毎月の通信で家族へ周知している。	より良い周知方法を検討する。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	ヒヤリハットの事例はすぐに職員間で共有し、記録に残している。朝礼や定期的な職員会議で再発防止策について検討している。	「発生場所」「発生分類」「状況」「原因」「被害予想」「保護者様への連絡状況」「再発防止策」の観点からヒヤリハットを作成している。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	1	虐待防止については事業所内外部の研修、オンライン研修等で適切な対応を話し合っている。また、虐待防止委員会を設置している。	今後も虐待防止に関する研修等に積極的に参加して適切な対応で支援できるようにしていく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8	0	子どもの生命に危険が及ぶ等の場合等組織的に決定している。契約時に保護者へは説明、了解を得ている。	身体拘束に至らないように全体の職員会議で対応方法を実践的に周知し、職員の知識・技術の獲得を目的として研修を行っていく。	